国立国会図書館関西館 Kansai-kan of the National Diet Library

所在地/京都府相楽郡精華町精華台8-1-3

建築主/国立国会図書館関西館

国土交通省近畿地方整備局営繕部

設計者/株式会社 陶器二三雄建築研究所

施工者/株式会社 竹中工務店

三井住友建設株式会社

五洋建設株式会社

竣工日/2002年8月30日

北側外観 Exterior on the north side.

Location / Soraku-gun, Kyoto Owners / Kansai-kan of the National Diet Library Kinki Regional Development Bureau Architect / Fumio Toki Associates Contractors / Takenaka Corporation Sumitomo Mitsui Construction Co.,Ltd. Penta-Ocean Construction Co.,Ltd. Completion Date / August 30, 2002



中庭より閲覧室を見る Reading room seen from the court.







ロビー Lobby.

閲覧室 Reading room.



断面 縮尺1/1,200



4階カフェテリア Cafeterrior on the fourth floor.



1階ロビー 右側がエントランスになる Lobby on the first floor. Entrance is on the right.



公開国際コンペにおいて、500にも及ぶ国内外からの応募作 の中から選定された作品である。

1968 (昭和43)年に完成した霞ヶ関の国立国会図書館本館 および新館の蔵書収用能力を補完すること、急速な電子媒体情 報化社会に対応した図書館サービスを国内外に提供するという 課題に対応するため、新図書館の建設計画が持ち上がり、国立 国会図書館関西プロジェクト調査会が設置されたのが1982年 である。以来、国際コンペを経て完成に至るまで20年を費やし た、その規模とともに壮大なプロジェクトである。

求められたものは、変化の激しい高度情報化システムに柔軟 に対応可能な空間であり、学究都市の中核施設としての景観・ 環境への配慮である。コンペ案から、基本計画に関わる大きな 変更なく完成に至ったことに同案の一貫した完成度の高さが窺 える。

敷地は、豊かな自然に恵まれた雑木林の丘陵地を新たに開発 造成した関西文化学術研究都市の一画に位置する。いまだ開発 途上で都市の様相の定まらない周辺状況の中にあって、要求ボ リュームの大半を地下に配置するという断面構成により生み出 された、適度なボリュームとガラスの壁の持つ存在感を纏った シンプルな形態は、丘陵地の原風景をほうふつさせる閲覧室屋 根の芝生や中庭の雑木林等と相まって、凛として品格のある佇 まいを見事に表出している。

空間構成は、あくまでもシンプルで明快である。エントラン スホールから地下1階の閲覧室へと続く空間は、中庭を回遊す る自然感溢れる開放的空間となっている。ガラスを主題としな がらも、スタッコ(コテ跡を残した左官仕上げ)の壁、アルミむ く材等質感豊かな素材を精緻なデイテールで構成した空間は、 緊張感のなかにも豊かで温かな雰囲気を創出している。特筆す べきは、中庭の佇まいである。再生された自然ではあるが、客 土から自生したススキや萩、野の草花の成長をあるがままに任 せた雑木林は、自然の力強さを改めて感じさせると共に、一種 独特の静謐さを増幅させる効果を生み出している。

ダブルスキン(中空層を設けた二重ガラス)構造の採用や屋上 緑化による空調負荷の低減、自然光の最大利用、雨水利用など、 環境負荷低減にも十分な取り組みが見られる。

今後進むであろう関西文化学術都市の整備にともない、より - 層の利用者増加が期待されるとともに、これからの周辺開発 のガイドラインともなるべき秀逸な作品として評価できる。

This work is based on a proposal selected from some 500 schemes submitted from inside and outside Japan in an open international competition.

In order to add to the storage capacity of the Main Library of the National Diet Library, completed in Kasumigaseki in 1968, and its adjacent Annex and to offer library services adapted to the rapid growth of electronic information to people inside and outside Japan, a plan to construct a new library was proposed and the Kansai-kan of the National Diet Library Project Board of Inquiry was established in 1982. It proved to be an enormous and time-consuming project; 20 more years passed before a competition was held and the building was finally completed. The program called for flexible spaces capable of adapting to rapid changes in advanced communication systems and scenic and environmental consideration of the library's position as a core facility in a city dedicated to science. The initial proposal was so well thought out that the building was completed without any major changes to the basic plan.

The site is located in a newly-developed area in a district of wooded hills blessed with a rich natural environment inside Kansai Science City. The area is still under development and not yet urbanized. The required building volume was half-buried in the ground. The result is a simple form with great presence, possessing a suitable aboveground volume and walls of glass. That form, together with the grass on the reading room roof and the trees in the courtyard that evoke the original landscape of the hills, produces a building of highly dignified appearance.

The spatial organization is simple and easy to understand. The space extending from the entrance hall to the reading room on the first basement floor circles the courtyard; it is an open space that brings the visitor into close contact with nature. Although glass is the main theme of the building, other materials such as stucco walls and solid aluminum members are also detailed with precision to bring out their materiality. There is a feeling of tension, but the space also has a rich, warm atmosphere. The appearance of the courtyard is especially noteworthy. Although they represent a re-created nature, the trees, Japanese pampas grass, Japanese bush clover and wild plants growing naturally from newly introduced soil remind us of the power of nature and reinforce the sense of tranquility in the library.

Many measures have been taken to reduce the burden on the environment; e.g. the use of a double-skin structure (two layers of glass with an intermediate air space) and the greening of the roof to reduce the air-conditioning load, maximum use of natural light, and use of rainwater.

As Kansai Science City continues to develop in the future, users of the library wil no doubt increase and the building will provide an excellent model for development in the area.



閲覧室から中庭を見る Court seen from the reading room.

建築概要

敷地面積 58,815.64m2

建築面積 10,445.78m2

延床面積 58,768.68m 階数 地上4階 地下4階

構造 地下鉄骨鉄筋コンクリート造 地上鉄骨造

施工期間 1998年10月~2002年8月

仕上げ概要

外部仕上げ

屋根/管理研究棟:RC直均し アスファルト防 水AI-1 エントランスキューブ: アルミパネル t=3mm B-1 塗膜防水 書庫棟:コウライシバ 有 機系人工土壌t=300mm FRP-ウレタン複合防水 中庭: 腐葉土敷き 真珠岩系人工土壌t=800mm FRP-ウレタン複合防水

外壁/管理棟北面:アルミカーテンウォールB-1 (ダ ブルスキン) フロートガラスタペストリー加工(内 外共) 東西面: アルミカーテンウォールB-1 フ ロートガラス アルミ押出固定ルーバー 珪酸カル シウム板t=12mm フッ素樹脂塗装 南面:アルミ フロートガラス 珪酸カル シウム板t=12mm フッ素樹脂塗装 エントランス キューブ: アルミカーテンウォール B-1 (ダブルス キン) フロートガラスタペストリー加工(外部) Low-E+フロート複層ガラス(内側) 書庫棟南面: アルミカーテンウォールB-1 フロート合せガラス ルミパネルt=5mm AP焼付け 天井/システム天 はめ殺し

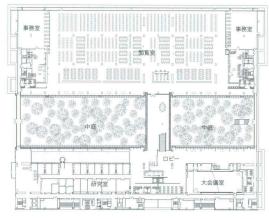
開口部/強化ガラス框ドア

内部仕上げ



4階平面

○ アトリウム ■ ■ ■ ■ 研修室 1階平面



地下1階平面 縮尺1/2.000

アルミカーテンウォールB-1 Low-E+フロート複 層ガラス 天井/アルミリブ付押出型材B-1パン チング加工 GWB裏打ち [アトリウム] 床/大 理石t=40mm 水磨き 壁/イタリアンスタッコ t=12mm ステンレス織物状パネル ウォールナッ ト練付け 天井/GB t=12.5mm EP 「ロビー・ 天井/イタリアンスタッコt=7mm 「閲覧室」床

コリドール] 床/大理石t=40mm水磨き 壁/イタ リアンスタッコt=12mm ウォールナット練付け /タイルカーペットt=7.2mm 壁/イタリアンス タッコt=12mm 天井/GB t=12.5mm EP 「研 床/タイルカーペットt=7.2mm 壁/イタ リアンスタッコt=12mm 天井/GB t=12.5mm EP [大会議室] 床 ウォールナットフローリング w=158mm t=16mm 壁 イタリアンスタッコ t=12mm ウォールナット練付けパネルt=6mm パ ンチング加工 天井 アルミルーバー AP焼付け [研修室] 床/タイルカーペットt=7.2mm 壁/ア 井St t=0.7mm ポリエステル粉体焼付け 「レスト ラン] 床/メイプルフローリング w=160mm

t=14mm 壁/GB t=12.5mm ウレタン塗装 天 [エントランス] 床/大理石 t=40mm 水磨き 壁/ 井/RB t=9mm EP アルミルーバーB-1フッ酸

処理 [執務室] 床/タイルカーペットt=6.5mm 壁/GB t=12.5mm ウレタン塗装 天井/シス テム天井St t=0.7mm ポリエステル粉体焼付け 「書庫]床/ビニル床シート貼り 嵩上コンクリー トt=50mm 壁/コンクリート打放し 天井/GB t=12.5mm EP

空調 方式/単一ダクト定風量方式 暖房/温水・ 冷水4管方式 ガスファンヒータ 熱源/ガス吸収 式冷温水発生機 ガス焚蒸気ボイラー 水冷式チー リングユニット 氷蓄熱槽

電気 受電方式/特別高圧3 ø 3W 22,000V 屋内 型キュービクル 契約容量/2,100kW 予備電源 /ガスタービン発電機 3 φ 3W 6,600V

その他 資料搬送設備 循環式垂直搬送装置 (17m/min) 昇降式垂直搬送装置(60m/min) 自 走式水平搬送機(120m/min) コンベア式水平搬送 機 ステーション 自動書庫 スタッカークレーン (100m/min) コンテナ(A版・B版 80kg×28,056 ケース 136万冊) 磁気式無人搬送台車(1ループ、 2台) 来館者管理設備 非接触型ICカード管理シ ステム 入退館ゲート3台 メインサーバ2台 運 用管理サーバ2台